

であろうか。このような問題が次々と提示されて、古墳群の側でもこれらの各時期に相当するものの実態をつきつめてゆく必要が生じてくるのである。塚ノ谷古墳では塚ノ谷第2号窯跡との需給関係が明らかにされた。また釘崎第3号古墳の第Ⅲ期須恵器からは、中尾谷や塚ノ谷第4号とも別の窯跡が存在する可能性が知られた。

一方、遺物がなく、石室だけしかのこっていない古墳については当然石室の構造、石材の使用法などから年代推定をする方法がなされなければならない。そこで筆者らがここ数年行っている北九州地方における巨石古墳その他の石室古墳の実測調査によってこれまで到達したこの方面での所見を適用して、塚ノ谷古墳、童男山古墳の分析を行なった結果をはじめて披露した。塚ノ谷古墳ではそれが須恵器編年と符合することを確認し、童男山古墳では石積みの方式に新しい時代の方式が導入されていることを確かめ、これまで漠然と7世紀代に比定していた本古墳の年代が6世紀末までさかのぼりうることを論証した。それが八女古墳群における大型石室の終末と考えられていることともあわせて重要である。筆者らの石積技法による横口式石室の分析、編年論はこのほかにも筑前、豊前地域において資料を集積している状況であるから、今後さらに各時期における実態、地域性の問題などを詳細に検討していき、この方法論を完成したいと願っている。

次回の調査ではさらに今回までの調査結果を通じて上述のように提起された問題を追求し、八女古窯跡群、八女古墳群を全体的に把握する方向にすすめたいと考えている。 (小田富士雄)

註 (1) 小田富士雄「窯業—九州」日本の考古学VI・1967

(2) 小田富士雄・柳田康雄・真野和夫「野添・大浦窯跡群」福岡県文化財調査報告書第43集・1970

(3) 小田富士雄「磐井の反乱」古代の日本3・1970

九州発見古硯出土遺跡地名表・追補

調査報告Ⅰ(74頁)において、塚ノ谷第1号及び第2号窯跡発見の円面硯に因んで参考までに九州発見の古硯出土遺跡地名表を作成した。その後さらに二、三の追補例を蒐集しえたので加えておく。遺跡及び文献に付した番号は前出地名表に後続するものである。

21	筑前・筑紫郡太宰府町観世音寺字住ヶ元	陶製・円面硯(平安)	文献10
		陶製・八面硯(平安)	"
22	筑前・筑紫郡太宰府町観世音寺字露切	陶製・円面硯(奈良)	"
23	筑前・筑紫郡太宰府町大字太宰府字平野	石製・長方硯?(鎌倉)	
24	肥後・荒尾市洗出(窯跡)	陶製・円面硯(奈良~平安)	
25	肥後・菊池郡大津町真木	石製・長方硯?(平安~鎌倉)	
26	豊後・杵築市(地下式横穴)	石製・風字硯(平安)	

〔文献〕

10. 福岡県教育委員会刊「大宰府史跡—昭和45年度発掘調査の概要—」1971

(小田富士雄)